国土交通省
道企第1705号
19.5.31

山建E2－24号
平成19年4月20日

国土交通省道路局長　様

山鹿市長　中　嶋　憲　正

中期的な計画作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

担　当：建設部 建設課 建設総務係
宮　崎
電　話：0968-43-1584
ＦＡＸ：0968-44-3200

私がかねてから考えている地方における道路の「意義」について申し述べます。

今日の日本の姿を見る一つの視点として、人口の中央への集中と地方の過疎化の進行というとらえ方があると思います。

「将来の日本のあり方としてこれでいいのか、このままでいいのか」と大きな危惧の念をもっております。

確かに、中央には大きな経済力、利便性、そして多くの魅力があり、日本を力強くリードする力がより多くの人を惹きつけます。

しかしながら、逆にそのことが多くの問題を引き起こしております。環境破壊、災害発生時の危険性増大、人間らしく生きる力の欠如など多くの問題が更に深刻化することが予想されます。

一方、地方において、これ以上の過疎化が進むならば、それぞれの地域が有する、人が生きている証ともいえる、脈々と受け継がれた文化や伝統、歴史が悲しく消滅してしまうことが予想されます。また、地域の方々の営みの中で、しっかりと守り育てられた森林、農地、景観、水、環境が大きく変貌するでありましょう。それらの大きな自然、歴史、伝統、文化の中で育まれる「人間を人間らしく育てる大きな力」が減退していくと強く懸念するものであります。

それらの心配、懸念を取り除く為には、日本全国それぞれの地域がそれぞれのもつ役割をしっかりと担いつつ、その役割を担う人々がその地域に愛着を持って豊かに住みつづけ、生きつづけることが基本であります。

それらを実現するためには、基本的社会基盤となる「道路」を整備することがその出発点になると考えています。

以下、山鹿市における具体的な道路行政に対する考え方を述べます。

① 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

山鹿市は、県北における商業業務機能の一定の機能集積があり、広域的なクロスポイントとなっており、地域中心核としての役割を果たしています。

国道3号、国道325号は、他県・他市と連携する広域連携軸を構成するとともに地域の骨格軸としての役割を果たしています。

そのことを踏まえ、県内外の他都市、他地域との交流を促進し、既存産業の振興、地域資源を活かした個性ある地域づくり、安心して暮らせる地域づくりの展開を目指し市の一体的道路整備を行います。

また、景観を良くし文化を生み出し環境を守る整備については、八千代座を核として豊前街道の整備や歴史的な町並みの形成を進め、歴史的景観と調和した人が歩いて楽しくなるようにやさしい道路整備を行います。

なお、国道325号の渋滞緩和や大型貨物車の市街地への流入を抑制するためバイパス道路の整備を進め、市街地の道路環境の改善を図ります。

② 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

山鹿市全体の市道は、1,605 路線、総延長 1,015 kmに及びます。

本市における道路網の整備は、新市の一体性確保や均衡ある発展を目指すべく「道路マスタープラン」を基本に取り組むこととしており、現在策定中です。

また、厳しい財政事情の下、コスト縮減を図る一方、道路が市民生活や産業振興の基盤のみならず、災害や緊急時の輸送ラインとして不可欠であるなど、多面的公益機能を有することから、利便性や安全性に十分配慮しつつ、道路整備を効率的に進めるうえで、既存道路のネットワーク化を図り、着実かつ計画的に整備を進めます。

③ その他、道路政策や道路整備・管理全般に関すること

空港や鉄道（新幹線玉名駅）高速道路 IC との接続を強化することで広域的な交通ネットワークを構築し、利便性の向上を図り、県内外を問わずアジアをターゲットとした市場の拡大を図っていきます。

道路管理については、常に道路状況を把握するための道路パトロールを積極的に実施する。特に、危険箇所の改善には迅速に対応し、道路の維持管理を年次計画により整備を行い、安全で安心な道路整備に努めます。

また、市道橋（621 基）については、地震時などの安全性を確保するため橋梁台帳を整備し、必要に応じてメンテナンスを実施します。

なお、国においては、行財政改革のなか、公共事業費の 3%削減、あるいは道路特定財源制度の見直し（一般財源化）など、道路行政を取り巻く状況が極めて厳しいものの、道路は、国民生活や経済・社会活動を支える基礎的社会資本であり、その整備は広く住民の熱望するものです。